

令和2年8月6日（木曜日）

教育、民生常任委員会会議録

教育、民生常任委員会会議録

---

令和2年8月6日（木曜日）

---

出席委員（8名）

委員長 福田 淑子 君

副委員長 柳田 政喜 君

委員 村松 秀雄 君

平吹 俊雄 君

藤田 洋一 君

吉田 二郎 君

手島 牧世 君

我妻 薫 君

---

欠席委員（なし）

---

議長 大橋 昭太郎 君

---

町執行部出席者

南郷病院事務長 日野 剛 君

南郷病院医事係長 佐藤 敏行 君

---

議会事務局職員出席者

次長兼議事調査係長 齊藤 美穂 君

---

令和2年8月6日（木曜日） 午後1時30分 開会

第 1 新型コロナウイルス流行に伴う南郷病院の状況について、南郷病院職員との意見交換

第 2 所管事務調査のまとめについて

---

本日の会議に付した事件

第 1 新型コロナウイルス流行に伴う南郷病院の状況について、南郷病院職員との意見交換

第 2 所管事務調査のまとめについて

午後1時25分 開会

○委員長（福田淑子君） 皆さん、大変お疲れさまでございます。ありがとうございます。

今日は広島に原爆が投下されて75年経過しました。皆さんに御協力をお願いしたいんですけども、原爆で亡くなった方、それから、これからの平和を祈念いたしまして黙禱を行いたいと思いますので、御起立、御協力お願いいたします。

それでは、黙禱。

お直りください。どうもありがとうございました。

ただいまから、第8回教育、民生常任委員会を行います。

今日は委員全員出席ですので、委員会は成立をいたしております。

今日は大変お忙しい中、南郷病院の職員の皆さんにおいでいただいて、新型コロナウイルス感染症に伴う病院事業に対する影響について御説明をいただきながら、あと、皆さんがどういう方向がいいのか、いろいろ話し合っていきたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

それから、所管事務調査、石巻市に行っていましたので、所管事務調査の報告、これを明日の会議に提出したいなと思ひまして作成いたしましたので、その後皆さんでいろいろお目通しをいただきながら、直すところは直して、明日の会議に提出をしていきたいというふうに考えておりますので、どうぞ御協力をお願いいたします。

それでは、まず第1番目、新型コロナウイルス流行に伴う南郷病院の状況について、南郷病院職員の方からいろいろ御説明いただきながら意見交換しますので、よろしくどうぞお願いいたします。

○南郷病院事務長（日野 剛君） それでは、本日出席しています事務長の日野と、あと医事係長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今日お持ちしました資料に基づきまして御説明をしたいと思ひます。

1番の新型コロナウイルス流行に伴う患者減少についてのほうは、佐藤係長のほうから御説明申し上げます。1つずつでよろしいですか。続けて全部でいいですか。

○委員長（福田淑子君） 全部、含まれることは。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 一通り、じゃあ全部御説明しますので、3番まで、4番も。

では、最初に佐藤のほうから。

○委員長（福田淑子君） 休憩する。（「説明だもん、いいんでねえの、そのままやって」「いや時間」の声あり）残したほういいの。（「残していいんじゃない」の声あり）休憩しないで、このままお願いいたします。すみません。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） それでは、本日お配りさせていただきました資料に基づいて説明をさせていただきます。

次第の1枚目をめくっていただきまして、A3の横の資料です。今回作成しました。こちらの資料については、上段のほうが入院収益に関するものと、その下が外来収益、あと一番下の表のところを外来と入院まとめた表で構成されております。

表の左側、1番というか、最初に、4月から3月までのタイトルの隣が、参考となるように平成30年度の各月の実績を掲載しております。続きまして、右側に移りまして、比較する対象としたものが令和元年度分の各月の実績を記載しております。それで、その右側に移りまして、令和2年度、今年度の4月から6月までの実績を記載しております。

今回4月、5月、6月と、今年度の実績を拾ってみたところなんですけれども、その前の年、令和元年度の同じ4月、5月、6月と比較してどれほど収益で減少しているか、患者数で減少しているかといったものが分かるように、一番右側に減少の数を示した表を作成しました。

まず、1番目が4月分だったんですけれども、令和2年度の4月と令和元年度の4月を単純に比較したところでは、収益で401万7,630円減少している。患者数については、入院患者については123人、延べ患者数なんですけれども減少している。5月で比較すると、収益の額はさらに大きくなりまして、5月だけで795万1,155円減少している。延べ患者数で比較すると454人減少している。6月に入りまして、その減少の金額については、6月は113万1,223円、患者数については227人と減少が確認できます。

月別の減少額は、4月、5月、6月の中で5月が一番大きいところではあるんですけれども、比較の対象となる令和元年度のそれぞれの月の収益はどのようだったかというので令和元年度のほうを見ていただきますと、ちょうど5月が収益がこの3か月の中でも最も高い月であったというところで、単純に795万の減少というのが一概に比較するのもおかしいのかなというところもありまして、まず3か月の平均で減少、1か月当たりどれぐらいの減少の幅かというところを計算する表を作っております。3か月分の平均の減少ですけれども、一月あたりは平均取ると436万6,669円減少しているというところ、あと患者数については一月あたり入院患者で268人減少しているというところがあります。これもまた単純計算だったんですけれども、一月当たりのその減少の平均です。これを1年の12か月分にして掛けてみたところ、単純でいくと年間このペースで進んでいくと、入院収益については5,240万ほど減少するのではないかと、単純計算などところでの試算はしたところです。患者数についても、平均が268人掛ける12というところで年間入院患者数は3,216人減少するのではないかとというところで見えております。

下の段に行きまして、外来のほうも同様の流れで計算してみると、外来収益の平均のほうで減少するのが211万4,692円というところで、年間で見ると2,500万ほど減少するのではないかと。あと外来患者数については、年間で1,212名減少するのではないかと見たところではあったんですけども、1つ注目するところとすれば、6月なんですけれども、入院も外来も収益のほうで見ると、どの月よりも一番減収金額が一番低くなっているというところもあったので、減収にも、ここまではもう底の部分をついたのかなというところでも見ているんですけども、ここまで行ってもまだ3か月、たった3か月だけの結果なので、今後どのようになっていくかというのが実際なかなか見通しが立たないところではあります。

あとは、一番下にこの入院収益と外来収益の合計額を出しています。平成30年度だと合計で4億です。令和元年度で3億7,000万。単純に令和2年度で、その平均で減少した金額を足してあげて、令和元年度の総額から差し引いた金額がこの2億9,500万と記載はしているんですけども、あくまでもここは平均から追っていった試算の数値ですので、これを見込んでいるというものではなかったもので、一応その辺はそのように御理解いただければと思います。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 資料1の部分につきまして、減収の部分お話ししたとおりでございます。

実際、減収した理由ですけれども、一番はコロナウイルスの蔓延は当然で、それに伴う受診控えがやっぱり一番大きいのかなというところでもあります。

あとは、長期処方、コロナの蔓延に伴って長期処方90日分の処方というのも結構出していましたので、それに伴う患者数の減少も考えられるという予想でございます。

あとは、中核病院、市民病院とか、あと石巻日赤とか、中核病院での、要は、手術後の回復した患者さんがうちのほうに転院で戻ってくるというようなことが多分少なくなったというのも原因があるんじゃないかなというところもあります。要は、そういう大きい病院では手術、急を要さない手術とかを控えているというのものもあるのかなということで、こちらのほうでは考えていますけれども。

資料1につきましては以上でございます。

○委員長（福田淑子君） すみません、一回ここで切ったほうがいいよね。

現況をお話ししていただきましたけれども、これについて何か御質問あれば、先に現況について。我妻委員。

○委員（我妻 薫君） 低くなるというので、全国の4月、5月の出てるんですけど。ちょっと見てきたら、その点に市立病院の関係もある。毎月なのかな、全国公私病院連盟というところ

で出しているんです。だから、そこには自治体病院も入っているかもしれない。それで見ると、4月、5月下旬だったら、5月、どっちでもこの場合でいくとうちのほう随分多いようなんです。（「多いというのは」の声あり）現実より減収率が。こっちでいくと、全国でいうと、4月でも入院で5.6、外来で6.7、5月で11.4の18.2。何かちょっと入院のほう多いなと思ったら、今大きい病院からの術後の転院が控えられている状況で。それにしても多いんだよね。全国平均よりも、何か南郷は減収率が多いふうに見られたんで。全国なんかも両方なんかは入って。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 今お話しあった、その病院連盟っていうところの情報はちょっと……。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 県とか国とかからそういうのはこないです。うちのほうで、近隣の、要は、涌谷病院さんなんかでも公立加美病院さんだったり、事務長さんとやり取りしたんですけれども、本当にどこもそれぐらいの、うちのほうと同じぐらいの減収があるようなお話はしています。

○委員（我妻 薫君） コロナ患者受け入れた病院と受け入れていない病院もきちんと分けているから、うちのほうは受けてないと。受け入れるところをまず見ないと、もうちょっと大きいところ。受け入れていない病院にしてはちょっと多いなって話。いいです。

○委員長（福田淑子君） ほかに。手島委員。

○委員（手島牧世君） すみません。数字なんですけれども、前回ちょっと資料頂いているのと、減収見込額が入院と外来と違うんですが、こっちが、今頂いている、まあ、計算すればいいんですけれども、前回頂いたのが474万3,234円という数字だったんですが、どっちが、他の数字は変わらないですけれども、この見込みの数字だけ違うようなので。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 今回お配りしたほうが正しいとするところで、すみません、前回の資料も見直して、中身が誤っていたところがありましたので。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 監査委員さんに提出していた資料も少し変えて。今日これに差し替えてさせていただきました。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） 先ほど事務長のほうからお話しだったんですけれども、薬とかを90日分出すということで、要は、来院が少なくなったということが患者の減少だと思いますけれども、基本的に、やはり薬のほうの売上げというものはあまり変化はないということですか。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 薬局さんのということですよ。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 院外処方にはしているのです。

- 副委員長（柳田政喜君） ああそうか。院内のやつは、ちょっとしたやつを出すだけしたっけ。よく、私はなかなかドックのときしか行かないですけども、そのときの薬とかは病院の薬もらっていたりとかしていたんで。（「下剤とか」の声あり）下剤とかの薬。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） そういうところでは出しますけれども、処方箋出して全部調剤薬局のほうに。
- 副委員長（柳田政喜君） 全部調剤薬局ですね。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） そうです。うちのほうでやるのは、入院患者も調剤とかは薬局でやりますから。
- 副委員長（柳田政喜君） じゃあ、入院患者の減収でやっぱり薬剤も減っているということですよ。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） そうです。
- 副委員長（柳田政喜君） 先ほど我妻委員のほうから話しあったと思うんですけども、やっぱり減収をした分というのは、ちょっと厳しいことを言わせてもらいますけれども、やっぱり控えることが可能だった診療という見方もあると思うんです。というのは、今回のこの話の中でちょっと適切かどうか分かんないですけども、国保料がここ数年急激に上がってきていると全国的に問題になっていまして、特に我が町でも小さい子供たちは、医療に関しては無償化しているということで、ちょっとした発熱で行くとか、そういう部分も多いというふうに聞いているんです。全国的にどこのところでもある程度の負担であるとか、町民の人をお願いして、無駄な治療は避けてくださいというお願いしたところ大分下がったというところもあるんですけども、そういう部分を考えて、やっぱり今後、まずはコロナが長引くことですから、これを控えた形が続くと思うんです。そういったものに対しては病院としてはどのような考えを、この現実を見ながら今後はどのような感じで。
- 委員長（福田淑子君） これ、現状であるってこと。
- 副委員長（柳田政喜君） はい、分かりました。
- 委員長（福田淑子君） 後でいいですね。
- 副委員長（柳田政喜君） はい、後で。
- 委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。平吹委員。
- 委員（平吹俊雄君） 患者数というか、入院者、患者もなんだけれども、外来もなんだけれども、どうなんですか、年齢的に、高齢者なり、あるいは通常の、その辺の患者の減少というのはどうなんですか。やっぱり高齢者が。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 高齢者……若年層はやっぱりもともと少ないんですうちのほうは、その分で、当然減った部分についてはやっぱり高齢者の方という部分です。

○委員（平吹俊雄君） やっぱりそういう高齢の患者が多いということもあって、普通の病院と  
いうか、全国的な平均より多いのかなという感じなんだけれども、その辺はまだ分析はして  
いないんですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 今回のこの減収の部分について、100%コロナかと言われたこ  
とに対して、そこは断言はなかなかできないですが、去年、おととしから比べても、その辺に  
ある程度人口の減少とか、そういうものの影響も当然はあると思うんですけれども、それに、  
今回の場合については輪をかけて減った感じはあります。どれがコロナの影響で、どれが人口  
減少の部分かと言われると、なかなかそこは何とも即答できません。

○委員（平吹俊雄君） やっぱり通常通っている患者の人が少なくなっている。新患いても。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 新患……その辺は、でも、こういうコロナのときは、ほかの  
一般の医療機関で断られて南郷病院に来たという患者さんも、やっぱりうちのほうは  
受入れしていますので、そういう、発熱あってここで診られませんかからって言われた患者さん  
もうちのほうにいらしていただくというのがありますので。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。はい、どうぞ。（「休憩にというところで」の  
声あり）

じゃあ休憩します。

午後1時44分 休憩

---

午後1時47分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

ほかにありませんか。

私から。収入から費用を引いた額というのはこれに書いていないので。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 費用……。

○委員長（福田淑子君） そうすると、1か月幾らぐらいの、電話ではお聞きしたんだけど、  
利益は1か月平均で幾らぐらいの減収なのか。収入から費用引かないと分かんないかなと。そ  
の辺。さっき我妻委員が言った全国公私病院連盟でそういう調査をしたんだよね。そのさっき  
の話の続きなんですけれども、じゃあ、美里町の南郷病院はどうだったのかという。調査依頼  
は来なかった。来ていない、病院に。来なかったのね。

まず、じゃあ収入から費用引いた医業利益は幾らなのかという部分なんですけれども。3か月分、全部。

○南郷病院事務長（日野 剛君） ここに資料ないので、ちょっと費用の部分については今日持ってこなかったの。

○委員長（福田淑子君） 電話ではお聞きしたときに、1か月の……。1か月に減収だって今分かったんですけれども、じゃあこのままの状態でいけば3か月間で何ぼの利益が下がります、それから1年でこれぐらいの赤字になりますというのは分かんないので、その辺じゃあ教えてもらっていいですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） いいです。

○委員長（福田淑子君） 今日、後からにしても、お願いします。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 後で。今手持ち資料がなかったので、すみません。費用とその収益のバランスについては、ちょっとすぐお答えすることができなくて申し訳ありません。

○委員長（福田淑子君） じゃあ、これはあくまでも収益の分だけなんですね。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 収益ですね。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 収益と患者の減少をベースにした収益だけでしか拾わなかったの、ちょっと費用のほうまではちょっと見ていなかったの、すみません。

○委員長（福田淑子君） 要は、これから対処するときに、じゃあ1か月でどれぐらいのお金が減収するので、それを、例えば、支出を引いた場合にじゃあどれぐらい赤字になるのかという見込みがちょっと知りたいので。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 分かりました。あと、そちらの資料については後ほど作成したものを。

○委員長（福田淑子君） まだ計算はしていない。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） はい。

○委員長（福田淑子君） 分かりました。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 例月の監査の数値をベースにその辺比較して作成したいとは、今思ったところなんですけれども、ちょっと作成してみてということで。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか、皆さんから。（「なし」の声あり）

なければ、この減収についての現況のお話を終わりたいと思います。

じゃあ、次に進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○南郷病院事務長（日野 剛君） それでは、次の資料2を使いまして、国の医療機関・医療従

事者支援策についてというところについてお話ししたいと思います。

資料2です。一番頭紙がついていまして、これが一応厚生労働省が、全国自治体病院協議会のほうへ来た文書の内容になっています。

1枚めくってもらいまして、緑色のやつなんですけど、別添1というのが、医療機関と医療従事者に対する支援内容になっております。

もう一枚、別添2のほうは歯科医療機関、要は、歯医者さん関係の支援策になっております。

別添3につきましては、これらの概要をまとめたものでありまして、1つずつ御説明していきますと、次のページの福祉医療機構の優遇融資というやつもあります。これにつきましては、あくまでも借金でございます。お金を無利子で貸すとか、そういったひとつの事業になっております。ただ、それ借りるということは返さなくちゃいけないわけで、これはなかなかうちのほうでも収益落ちてる中でお金を借りるというのはちょっと厳しいかなというところで、今これは、今のところは考えていません。

次の救急・周産期・小児医療機関の院内感染防止対策になります。これもうちのほうで対象医療機関には該当はしております。二次救急医療機関に一応なっておりますので、これには該当します。ただし、新型コロナウイルスの疑い患者が来た場合に、受入れも考えての支援内容になっております。一応99床以下2,000万円ということで、うちのほうだと手を挙げれば2,000万円上限にして補助が来る、10分の10の補助なので、来る予定ではありますが、これをやるためにはそれなりのドクターの確保だったり、人件費が、専用の看護師とか用意したりとか、それに見合うだけの人員的な余裕がないので、これは今回見送る予定にしております。

次の、もう一枚めくっていただいて、医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業、こちらのほうを今回うちのほうで申請する予定にしております。病院の、補助の上限額が1病院200万円プラス5万円掛ける病床数になっておりますので、うちのほう50床になりますので、全部で450万円の補助を受けることができます。一応これを受けるために今いろいろ資料等の申請書類を作っております。

次が新型コロナウイルス感染症の重点医療機関の体制整備、これらは新型コロナウイルスを受け入れている重点医療機関向けでございます。

次の診療報酬上の特例的な対応、これにつきましても、コロナウイルス患者の受け入れるところでの対応でございます。

次の一番最後です。これは補助事業というんじゃなくて、医療従事者の慰労金の交付事業になります。一応うちのほう、コロナの患者を受け入れている病院ではありませんので、一番下

のその他の病院に該当して、1人当たり5万円の慰労金というのを頂けることになっています。病院がまとめて従事者分の部分を申請して、病院のほうに一旦、考えているのは歳計外現金、病院では預かり金なんですけれども、預かり金に一旦お金を頂いて、それを対象者に1人5万円ずつ振り込むという形になると思います。病院の職員については、現在51人ほどおりまして、それら全員対象となるということになります。あと委託先の、窓口の委託だったり、清掃の業者さんも対象になりますので、そちらの人たちにも全部で13人とかでやっていますので、全部で64人が南郷病院の対象者になるもので、今の部分試算しています。これは一応病院事業に入ることではないので、個人に慰労金という形で給付に、国からなる部分になります。

資料2につきましては以上でございます。

○委員長（福田淑子君） ありがとうございます。御質問ありますか。手島委員。

○委員（手島牧世君） 今、最後のところだったんですけども、この従事職員の中に町の職員も対象として支払われるかどうか、お伺いいたします。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 町の職員も対象でございます。町というか、病院職員。

○委員（手島牧世君） 事務職員です。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 事務職員も対象でございます。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。我妻委員。

○委員（我妻 薫君） ここに入るのかどうか。一応南郷病院としても、発熱外来としてちゃんとした施設って、そういうんじゃないかも分かんないですけども、一応そういう分けた対応しているよね。

○南郷病院事務長（日野 剛君） しています。

○委員（我妻 薫君） そういう経費なんかというのは。

○南郷病院事務長（日野 剛君） それらの経費もこちらの1病院200万プラス5万円、450万円の中で入る。それで、これを活用してこちらにつける経費になりますので。

○委員（我妻 薫君） これで見え。

○南郷病院事務長（日野 剛君） はい。対応させていただきたいなど。9月の今度の議会のときに補正予算としてさせていただく予定にしております。

○委員（我妻 薫君） ここ見れば、フェースガード……。

○南郷病院事務長（日野 剛君） フェースシールド。

○委員（我妻 薫君） フェースシールドとか、そういった、あとは……。

○南郷病院事務長（日野 剛君） ガウンですか。

- 委員（我妻 薫君） ガウンとか。そういったのも全部ここに含まれる。
- 南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 実際のところ、そういうのも含めて、全ての感染症対策に、こういった費用の実費に対してこの450万を上限に補助しますよといったところになります。
- 委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。（「もう一個いいですか、すみません」の声あり）手島委員。
- 委員（手島牧世君） 救急に関する院内感染予防対策のほうなんですけれども、こちら人員対応が難しいということだったんですけれども、これ実際対応するととなると、例えば、人員とかそういったところでどれぐらいの経費が、上限が2,000万だったので、どうなのかなっていうような感じなんですけれども。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） 一応、うちのほうで考えている部分につきましては、今リハビリ室を使って発熱外来対応しているんですけれども、それらに伴う、ここに書いています簡易ベッドだったり、HEPAフィルターだったり、要はそういうもの全部そろえていて、なおさら発熱外来専用にはドクター、多分診察するたびに全部着替えて、消毒して、再度また来たときにまた着替えてというような、そういう時間的なところで、それに伴って看護師も、当然ドクター1人でやるわけにいかないの、看護師もそれ専用の看護師多めに補充しないと、そういったことも考えると、なかなか難しいんじゃないかなということでも考えました。なおさら夜間も、そういったときの部分も、日中だけっていうんだっただけなんですけれども、なかなか夜間救急車が入って、そのコロナも本当に疑わしいような患者が入ってくれば、もう1医療機関としては、なかなか厳しいのではないかと思います。

うちのほう、まあ、ほかの病院の人と話していますけれども、これ取るというところが、今のところ近隣では涌谷さんが手挙げそうな話は聞いていますので、加美とか、南三陸では、この辺は手は挙げないって話しています。（「涌谷手挙げたんだ」の声あり）ただ、涌谷さんも本当に受け入れる気あるのかに関しては分かりませんが、ただ……（「休憩のほうがいい」の声あり）すみません。

- 委員長（福田淑子君） ただいまより休憩します。

午後2時01分 休憩

---

午後2時11分 再開

- 委員長（福田淑子君） 再開いたします。

この資料に基づいての御質問、なければ休憩して、その後いろいろ意見交換をしていきたい

と思いますので、よろしく申し上げます。

それでは休憩します。再開は2時25分。10分間休憩します。

午後2時11分 休憩

---

午後2時11分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

失礼いたしました。

資料3について御説明をお願いいたします。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 資料3につきまして、A3のものですけれども、今回資料2で説明させていただきました450万円を上限にして、うちのほうで感染対策どのような経費がかかっているか、これからかかるかをまとめたものとなっております。

A3の右側のほう、こちらのほうを上から説明しますと、一番上のところが、現状、発熱外来、リハビリ室内に設置しているんですけれども、段差が激しい箇所がありましたので、車椅子用のスロープを4月の段階で設置のほうをもらいまして、6万円ここで経費かかっております。

あと2段目、このリハビリ室、もともと網戸がない部屋でしたので、網戸を設置して常に外の空気を入れ換えして、感染防止対策を徹底しなきゃいけないということで網戸をつけました。

あとは3段目なんですけれども、病院内に設置している患者用の待合椅子なんですけれども、実は布張りの椅子だったんです。うちのほうで環境消毒、高濃度エタノールで消毒作業するんですけれども、どうしても布だと吸収してしまっていて消毒がうまく機能しないというところで悩んでいて、ちょうど安いビニール製の長椅子を買おうか、どうしようかと悩んでいたところ、この補助金のお話が出てきたので、であれば、今ある椅子、立派な椅子ですので、布生地からビニールレザーに生地を張り替えして、また使っていきましょうということで、おおよそ300万近く修繕をかけて、張り替えして消毒していくといったところで進めるものです。

4段目については、これもリハビリ室の換気の話なんですけれども、窓開けるといふよりかは、HEPAフィルターというものがついた空気を外に出す、簡単に言う換気扇の、何ていうんですか、さらに強力なものというんですか、よく工事現場なんかでアスベスト工事をやる時に、同様のHEPAフィルターついた空気をきれいにするものがあるらしいんですけれども、それと同じものを設置して、とにかく患者さん、もう疑いの患者さんでも発熱外来で診た患者さんがいる限り、常にそれを、HEPAフィルターつきの機械で空気をきれいにして、次の患

者さんを迎えるというのを進めたいというところで、この86万1,000円ぐらいということで今検討しておるところです。

あと一番下については、同じくこれも発熱外来でCT等を撮影した画像を診断する端末なんですけれども、一時的に小児科のところで使っていた端末を移動させて、発熱外来に間借りしている状態で今運用しています。こちら補助金450万上限に実費で支給されるというものでしたので、今回端末1台を増設して、この5つでちょうど450万4,000円ということで。（「ぴったりだ」の声あり）はい。

というところで、実費分しか支給、補助されないので、あとこの補助を超えている部分は、既存の予算を活用して対応するといったところで今考えているところです。

こちらの450万につきましては、今度の9月議会で補正予算のほうを計上させていただき予定としておりまして、上4つは3条予算で、収入と支出でそれぞれ同額を計上する予定としています。一番下の55万も収入と支出で同額を計上して、ちょうど450万全て財源を補助できるようにといったところで今考えております。

あと、左側につきましては、これは4月から今までどれほど感染症対策で、そのほかで経費をかけているかというところを拾ってみたところなんですけれども、まず一番上のところなんですけれども、南郷病院の中庭に窓があるのは御存じだと思うんですけれども、その上に排煙用の、要は、火災起きたときにボタンを押して一気に開いて煙を出すという窓がついているというのを、これを感染対策の換気に活用しましょうというところで、ただ、ボタンを押して開けると日中蜂多いので、虫が入ってくるというところがとってもあったので、まず全部の窓に網戸を設置して換気を必ずできるようにしようというところで実際もう取り組みました。今病院に来ていただければ分かるんですけれども、既にもう違和感なく網戸がついて換気のほうを行っております。

それで、あと2番目につきましては、流行した3月、4月は長袖ガウンが買いたくても購入できなかったというのがあって、苦肉の策で、これは100円ショップのレインコートを1,000枚購入して、これを消毒しながら使い回していきましょうということで年度当初に購入したものです。実際、これ買って数枚使い始めたあたりには支援物資として長袖ガウンが徐々に届くようになってきて、これは一旦そのままとっておいて、また必要時に使いましょうというところでまだ在庫は残っているところです。細かいこと言ったら切りないんですけれども、レインコートを洗う物干場、これも病院内に設置しなきゃないということで、公用車とめていた車庫が外にあるんですけれども、シャッター付きの車庫です。そこをシャッター開けて、取りあえず

公用車を2台出して、その中に物干しざおを天井からつるして、ふだん人が入らないような環境を整えて、洗ったレインコートを干して、日数、何日か干せばもう大丈夫だというその基準に合わせて再利用していきましょうということで再利用したのも実績としてはあるんですけども、小物も、まずそういった物干し買ったり、つったりしたりっていう費用はあるんですけども、ちょっとそこまでは今回載せていませんけれども、そういうもので実際今まで何とか対応してきました。

あと、上から3段目から、さらに4、5、6段目と、これが高濃度エタノールを購入したものでした。1つ税込みで3万1,900円というところで、消毒用エタノールも不足が生じて、何ていうんでしょう、手指の消毒剤が手に入らなかった時期がありましたので、環境消毒に徹底しなきゃいけないということで濃度の高いエタノールを一斗缶で購入して、それを薄めつつ、院内消毒に使うためにもう4月から購入し始めました。4月、5月、6月と購入して、今実際まだエタノールの在庫は余っているところで、さらに支援で高濃度エタノールも届くようになったので、今購入はちょっと一旦ストップしている段階です。ただ、これが、支援が終わってまた足りなくなれば買わなきゃいけないということで、下から2段目で、今後購入見込みというところで計上はさせていただいているんですけども、それはちょっと流動的、まだということです。

あと一番下につきましてはアクリル板です。庁舎の中にもあるんですけども、病院のほうで、うちのほうの感染症対策委員会のほうも1人の医療従事者も、1人ちょっと、高さも、何ていうんでしょう、アクリル板の高さがふだんよく一般で見る規格ではちょっと心配だということで、ちょっと病院ではもうちょっとさらに特注かもしれないんですけども、もっと安心できる高さのにしようということもあって今検討中なんですけれども、単純に今は税込み2万2,000円のを幾つか張ってみてはいるところで検討はしているんですけども、特注になるともうちょっと値段上がるかもしれない。これもまだ流動的ではあるんですけども、そういったところで、経費が今年度入ってからかかったものと、これからかかりそうなものというところで、補助金で補填できない部分、ざっと見ても今のところで80万ちょっとぐらいは出てくるんでないかというのも試算しております。

○委員長（福田淑子君） 今の説明で質問ある方。

ちょっと休憩します。

午後2時23分 休憩

---

午後2時26分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

質問ありませんか。（「なし」の声あり）

これで説明終わります。（「もう一つ」の声あり）もう一つ。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 一番最後に、今の在庫の状態。

○委員長（福田淑子君） 次に移ります。

○南郷病院事務長（日野 剛君） その他の部分で。

○委員長（福田淑子君） はい、じゃあお願いします。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 感染対策用品の在庫・流通状況についてというやつです。令和2年7月28日現在のまとめたものでございます。赤に塗り潰されているものが、やや入荷について滞りがちなものでございます。

ここに書いてあるとおり、サージカルマスクについては16か月分、N95マスクについては0.8か月分、これはなかなか入ってこなくて再利用中でございます。干して、しばらく置いてまた再度、名前も書いて、看護師なり、自分で名前を書いて、それぞれくるんで保管していただく。

また、あとゴーグル、これにつきましても再利用。

フェースシールドにつきましても再利用しております。

半袖のエプロンについては潤沢にあります。

あとガウンにつきましても、長袖ガウンにつきまして2.5か月分から5か月分ぐらいです。患者によって、感染症の患者が入れば余計に使うということになります。

それからアイソレーションガウン、キャップ、手袋、あとは手指消毒薬ラビジェルって院内あちこちにありますが、アルコールのジェルタイプのやつです。

アルコールクロス、ショードックといって施設消毒するやつになります。

これらについて、あと消毒クロス、次亜塩素酸、スワブというのは検体検査用のキットになります。あとPPEセットって感染患者が来たときに一式……にしたものをそろえたものになります。あとは先ほど言った高濃度アルコールです。……たものを薬局で薄めて使っております。

これの裏面なんですけれども、一番最後に配給状況ですけれども、国だったり、医師会だったり、いろんなところから支援というか、配給がありますので、御覧いただければ分かりますように、最近ではアイソレーションガウンが中心に入ってきております。アルコールだったり、あとは非接触性の体温計とかも中には入ってきております。前はマスクが多かったんですけれども、最近ではガウン中心に入ってくるようになっております。ほぼこれで購入、ある程度助

かっているというところでは……です。

以上になります。

○委員長（福田淑子君） ありがとうございます。

質問何かありませんでしょうか。手島委員。

○委員（手島牧世君） この配給については、手挙げ方式でこれ不足していますとか、例えば、N95、そっちでやっぱりっていうような情報を上げて……。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 手挙げでなくて、（「できない」の声あり）事前にこれ欲しいというわけでなくて、突然届きます。（「マスクの欲しいのは……だよ」の声あり）そうです。マスクの部分は、前に来たときはいろんな、医療機関では使えないようなものもありまして、それはまあ種類が、使えるとか……（「N95とKN95って違うんだ」の声あり）違います。KN95というのは、何かまあ性能的によくないんですけれども、隙間があつて。（「医療機関もね、いろいろ……」「そうですね」の声あり）

○委員長（福田淑子君） すみません。手を挙げて言っていたきたいので。記録があるので。

ありませんか。（「なし」の声あり）じゃあ、なければ……（「あと一つ、いいですか」の声あり）はい。吉田委員。

○委員（吉田二郎君） これすぐに県の町村会に行った分も、県のほうさ医療分が、感染数が少なくなってきた、ただ財政支援は主にとかって……。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 私のほうで聞いているのは、要は、こういう支援金の10分の10の補助事業だと、今かかったのについて……。

○委員長（福田淑子君） すみません。対策については後から。（「ああ、そうですか」の声あり）資料の説明に対しての質問だけにとどめて。（「資料の質問をお願いします」の声あり）

ありませんか。（「なし」の声あり）

じゃあ休憩いたします。再開は2時45分にします。

午後2時31分 休憩

---

午後2時41分 再開

○委員長（福田淑子君） では、再開いたします。

現況をお聞きいたしました。これからの時間は、じゃあ今後に向けてどのようにしていくことがいいのか、その対策です。

初めに、病院のほうから、こういう対策は考えているとかというのがあればぜひ伺いました

い。あと皆さんからいろいろ、これはどうなっているんだという前向きの提案をぜひいただければと思いますので、御協力お願いいたします。

じゃあ、病院のほうで具体的にありますか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） それでは、対策の部分なんですけれども、今すぐにあれをとというのはなかなか思いつくところではないんですけれども、民間病院さんで、患者さんちょっとうちのほうでは診られないので違う病院に行ってくださいというふうな患者さんがうちのほうに来ているような状況にもありますので、やはりそういった患者さんも含めて、最後の地域医療のとりでとして、病院はやっぱり同じように均等に、均一に皆さんを診るような形にしていかなくてはいけないのではないかなというところには考えております。なかなか赤字になる見込みがかなり大きいですが、その辺につきましても、やはり皆、スタッフ一同、工夫しながらやっていきたいなというところでもあります。足りないところにつきましては、当然町のほうからもいろいろ御協力いただければなというところは考えております。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） あと、今年度に入りまして、休日当番のほうで若干動きがあったところでお知らせしておきますと、もう既に実績だったんですけれども、当初の予定より5月付近で1回休日当番の割当てのほう増えているところがありました。やはり周りの医療機関の状況であったりというところで、要は交代というわけではなくて、1回さらに南郷病院で追加、今月の9日も広報で多分校正まで間に合わなかったんですけれども、熱海医院さんで最初休日当番の予定だったんですけれども、交代ではなくて、うちのほうでその日も休日当番やるということになっております。感染症の影響で、もしどこかの病院でも休日当番できないのでやってくれというところが出てくると、この流れでいくともしかしたら増える可能性とかもあるのかなというところで、対応のほうそちらも進めているところです。

○委員長（福田淑子君） 議長が急いで駆けつけていただきました。ありがとうございます。

病院のほうから対策についてまだまとめてはいないけれども、大体考えていることをお伺いいたしました。委員の皆さんからまたこういったものはどうなのかというものがあれば、ぜひお話をいただければと思うんですけれども。

まず初めに、私から。減収は分かりました。じゃあこれについての補填、じゃあどんなふうに関今後していくというふうにお考えなのか。もし考えがあれば、例えば、町からの一般財源についてはどのように、町がどのように考えているのかなということもお伺いしたいんですけれども。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 一応補助金2億は頂いておりますが、それ以外に、それ以上

に今回減収が見込まれております。財政当局とその辺につきましてはある程度協議をして、もう少し入れていただければ一番助かることは助かります。ただ、資金ショートまでは今のところは行かないのではないかなというところで見込んでおりますので、もしかすると財政のほうではお金がないというような話をされる可能性はあります。病院としては、繰入れをもう少し増やしていただければなというところでは考えております。

○委員長（福田淑子君） その繰入れについては、まだ協議中ということでしょうか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） そうですね。はい、協議中でございます。

○委員長（福田淑子君） それから、基金との関係。じゃあマイナスになった場合にどれだけの補填が基金からできるのかという、その基金の今の額、まだ決算は出ていないんでしょうけれども。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 病院の基金はございません。

○委員長（福田淑子君） ああ、ない。失礼しました。この2億というのは。（「繰出しだ」「2億は一般会計からの補助金で」「一般財源」「だからそれ以上頂きたいと思うんだけども財政があるということをさ。なぜならあれだとか」の声あり）

皆さんからありませんか。手島委員。マイク使ってください。

○委員（手島牧世君） すみません。病院の受診のほうなんですけれども、定期受診者の電話受診の対応とかしているかどうかということと、あと、ほかでコロナ対策として完全予約制というか、電話を入れて受け付けて、時間とかを制限しますよという対策なんかもしていたりするんですけれども、南郷病院としてはどのようになっているか伺います。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 南郷病院として、オンライン診療につきましては、検討はいたしました。ですが、オンライン診療については、今現在は見送っているところです。やはり診察した上で処方というところで今進めております。今後、もっと拡大してきたときには対応できる、そのときには、しなきゃいけないときにはできるような準備は進めているところですが、現状ではまだオンライン診療まではやっていないところです。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 一応今うちのほうに来ている患者さんの層的に、なかなかオンライン診療される方という患者さんの対象者がどれほどいるかというところがちょっとありまして、ある程度検討して、すぐにでもできる体制は取りたいなと思っています。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） あと予約制の話だったんですけれども、現在一般受診のほうでの予約制という形は取っておりません。もちろん予約で行っているのは健康診断等、ドック等といったものに限っては予約制で行っているんですけれども、一般外来のほうを予約性と

いうことでは行っておりません。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。皆さんから提案出してもらえると病院も取り組みやすいし、委員会としても。（「具体的に」の声あり）具体的に、ただ現況を聞いていて…  
…はい、どうぞ。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） あと、今年度の取組として、去年までと違いあるところをお知らせしますと、まず毎年、町職員、学校職員の職員健診も南郷病院ですずっと行っていたんですけども、昨年度までは夏場に3日間、日にちを設けまして、大体1日当たり120人前後、午前中で一気に健診やっていたところでした。今年度につきましては、さすがにその流れは踏めないというところで、6月の中旬あたりから毎日少しずつ時間も分けて密にならない程度でというところで、最終、終わるのが9月末まで、月、火、木、金と曜日を分けて、時間も午前中、午後の部と分けて実施しているところです。そこが一番大きく変わったところです。そこがあるので、9月までは結構予約の埋まりがあると。これぐらいです。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） あと、人間ドックで対がん協会かな、あそこで今やっているようなんだけれども、逆に、南郷病院だけで対応できないいんですか。まあ福祉課だけでもさ。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 南郷病院では、今現在月曜日と火曜日だけです。町で受け付けしたドックの対応をやっているんですけども、現状、それ以上の数で対応がちょっと難しいというところがありましたので、人間ドックの枠を増やすというところが今現在はちょっと考えていないところでした。

○委員長（福田淑子君） 平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） 人を増やすというと、そういう看護というか、その技術屋さん相当も含めて増やさなきゃいけないんですか。（「そうです」の声あり）そのスケジュールを、何ていうの、いろいろ調整したらできてくるんじゃないんですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 一番は、人間ドックの要は結果なんですけれども、結果を要は判定するのが玉手院長今やっている状況なんです。玉手院長がある程度診療の合間に結果出すというのはなかなか厳しいところがありまして、院長のほうは、頭数は1日4人までみたいな話をされていまして、なかなか院長に負担かけるというのはなかなかちょっと厳しいところがありまして、それで、まあ4人ぐらいをうちのほうは上限にしているところもあります。あと、なおさら内科1人なもんで、その辺です。

○委員長（福田淑子君） 平吹委員。

- 委員（平吹俊雄君） そうすると、今その結果出すのは1人だということで、それで1日4人で週に2回しかできないと、それで最大だという。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） 現状はそうでございます。
- 委員長（福田淑子君） 柳田委員。
- 副委員長（柳田政喜君） 私は毎年南郷病院さんに人間ドックさせてもらっているんですけども、もう少しやっぱり、今後でもいいので、オプションを増やしていただきたいな。例えば、胃カメラだったり、今バリウムだけですよ。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） いや、胃カメラもやっています。
- 副委員長（柳田政喜君） やっているんですけど。ごめんなさい。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） 希望される方いれば、はい。
- 副委員長（柳田政喜君） そういう部分のオプションでもうちょっと、CTもあるんですから、もうちょっと詳しいところまで診られるやつだったり、そういうのできないのかなと思ったんですけども、どうですか。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） CTの活用のもにつまましては、ある程度検討していける範囲じゃないかなと思っています。胸の写真の場合、CTに変えたりというのもやっているところもあるみたいなので、その辺については一応検討はしてみたいと思います。
- 副委員長（柳田政喜君） あと、腫瘍マーカーでしたっけ、あの辺に関しても、もうちょっと詳しく調べられる、血液で調べられるやつってありますよね。それでも料金高いというのは聞いているんですけども、いろいろそういうオプションも増やしたほうが何か安心できるみたいな。たまにやっぱり心配なときってあるじゃないですか。何年かに1回そういう、もうちょっといいのにしたい。毎年同じだと何か大丈夫かなと思うときもあって。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） 現状の腫瘍マーカーよりももっと種類を。
- 副委員長（柳田政喜君） そうですね、血液だけでいろんな何かも分かるとか、いろいろ分かるってよく言うじゃないですか。まあ、私も詳しく分かんないですけども。（「PET検査だっけ」の声あり）PET検査、そうですかね。よく女性が乳がんのPET検査だとか、そういうの。
- 南郷病院事務長（日野 剛君） PET検査については、ちょっとこの場ですぐできますと言えないので、ちょっと持ち帰って、検査だったり、ドクターだったりと検討したいと思います。
- 委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。我妻委員。マイクお願いします。
- 委員（我妻 薫君） 医療従事者のPCR検査なんかは考えはないの。というのは、今さっき

ちょっと雑談のときもあったようだけれども、従事者に対する物すごく偏見なんかも。病院で働いているというだけでも周りの人が敬遠するとか、そんな偏見なんかも今心配されるんだけど、それ以上に従事者の安全面からいっても、定期的なPCR検査をやっぱり要望していくという必要があるのかな。そういう動きはないんですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 定期的なPCR検査につきましては、今のところなかなか、なかなかというか、話にはなっていないです。実際保健所で、今のところ保健所で一括してやっているというのが現状なもので、何もないので対象として検査してくれるということ、まず今の体制ではできないのではないかなという。ある程度検査体制が整ってくれば、そういうところ要望していてもいいのかなというところは考えています。

○委員長（福田淑子君） 我妻委員。

○委員（我妻 薫君） いや、何でこんなこと言うのかって、医療従事者一番矢面に立っているわけ。そして、それよりもちょっと弱いかなと思ったら、さっきデイサービスの介護者、介護従事者が今感染している人が出て、今クラスターが発生している。院内感染のクラスター発生したらもう大変なことになるわけ。やっぱり現場から、前面に立ってやっている人たちの常の状況を把握しておくというか、それはやっぱり現場からも言っていく必要があるんじゃないのかな。上から来るの待っているんでなくて。最近仙台でそういう介護従事者が今始まっているわけっしょ。うちだってかなりの高齢者の施設なんかに感染したり、医療従事者にもう感染したら大変なことになるわけ。あとは福祉従事者にも。そんなものもちょっと、我々も言わなくてないだろうと思うけれども、現場からも声を出す必要があるのかなというふうに思うんだけど。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） 今PCR検査のことで、抗体検査っていうの、これも保健所なんですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 唾液の抗体検査。抗体検査……（「要は、かかった人が抗体持って」の声あり）それはやっていない。やっていないです。

○委員（平吹俊雄君） いや、かかった人じゃなくてさ、普通の抗体検査っていうのでできないのか。（「かかんきゃ抗体できない」の声あり）いやいや。（「あれは抗体検査希望すればしてもらえと思うんですけれども」の声あり）

○委員長（福田淑子君） 休憩します。

午後2時59分 休憩

午後3時06分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

ほかにありませんか、皆さんから。手島委員。

○委員（手島牧世君） 感染防止対策なんですけれども……。

○委員長（福田淑子君） すみません。そっちの人ね、入らないんです、記録取るのに。（「申し訳ないです」の声あり）

○委員（手島牧世君） 感染防止対策についてなんですけど、4月から今までの分というところで450万と約84万という数字が出ているんですけども、これ年度での今後の大体防止対策に係ってくるところでの、これぐらいやっぱり年度内は見込みとして出てくるという数字と、あわせて、医療機関、薬局等における感染拡大防止支援事業200万プラス5万掛ける病床数、それというのが、例えば、これが拡充されるとして、結局見込みとしてこれが増えていけばある程度対応というか、対策というところで安定してできるのかなというところで、今後のかかってくるというか、これは多分大体今かかっている部分と補助対象というところだと思うんです。ただ、実際として、もっと本来であればここまで欲しいとかかっていうのはあるかどうかというところをお願いします。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） お配りした資料は、まず今、最低限取り組まなきゃいけないところを載せている状況にあります。これからいろんな見解が入って、もっとこうしたほうが感染対策に有効だという話を受ければ、その予算の許す限りなのか、補助がさらに拡充されるのか、そういったところも踏まえて、さらに追加でやらなきゃいけないのかというところで検討していきたいと考えてはいます。現状、最低限の本当にラインでここに載せているところが今のところですよ。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。せっかく議長おいでになったので、議長何か。

○議長（大橋昭太郎君） いえ、結構です。

○委員長（福田淑子君） 結構ですか。吉田委員、藤田委員、ありませんか。（「ありません」の声あり）ないですか。（「ちょっと」の声あり）藤田委員。

○委員（藤田洋一君） 健診なんですけれども、これコロナ禍で3密を避けるのっていうの、年とった、まあ高齢者というか、そういう方々がこの健診を受けたいっていうのはやっぱり町内でもかなり出ているのがあるんです。ここでこの患者数、外来ね、患者数減っている状態で、ちょっと4月、5月分が控えて、そのような、来たいけれどもなかなか受けられないというか、行かないといえますか、そういうのは。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 健診というか、定期受診の方が多分ある程度長期の薬の関係で減っているんじゃないかなというのを思うんですけども、ただ健診というと、住民健診とか、そういった……（「はい、そういうの」の声あり）そういうやつですか。（「はい」の声あり）まあ、住民健診は福祉課のほうでやっている健診、それである程度引っかかりとかした方が病院を受診するというようなケースで減っているというのは、もしかするとあるかもしれません、その辺につきましては。住民健診はまだこれから、12月頃というふうなお話を聞いていますけれども、はい。

○委員（藤田洋一君） そうすると、ますますこれから増えてくると、むしろもっと減っていくのかなというふうな感じもするんですけども。これからどんどん今増えているから。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 冬場になってまた今度違うインフルエンザだったり、また別な新型インフルというのも聞いていますけれども、そちらも流行して、冬場に今度患者増えるということも、もしかするとあるかもしれません、そこにつきましては。

○委員長（福田淑子君） 柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） ちょっと聞き忘れていましたけれども、訪問診療、これに関しては減少しているのでしょうか、減少していないのでしょうか。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 訪問診療の件数自体は年々トータルの数が減少傾向に。

○副委員長（柳田政喜君） 減少なの。増えるんでないの。

○南郷病院医事係長（佐藤敏行君） 対象者数が減っています。

○委員長（福田淑子君） 柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） 実際に私たち意外と国保……っていたときに行く機会が多いんですけども、そっちさ聞くと、やっぱり訪問診療来てもらって助かったという声やっぱり、私たちとしては近年増えてきているかなってイメージがあったんです。やっぱりそれ専門にしている病院も増えてきていますし、やっぱりその線の拡充もしていくべきなのか。ただ、お医者さんの負担はかなり大きくなると思うんです。その辺は皆さんにどのような形で周知していつているのかなという。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 訪問診療につきましては、要は、家で置いて、うちにいて最期まで診たいっていう方がやっぱり利用する方が多いと思うんですけども、実際のところ、まあ、うちのほうでは希望されれば行くというようなスタンスなんですけど、ただ、1件当たりのコストが、時間と、それがかなり……（「しよがないですよね」の声あり）はい。それ専門のところがあるぐらいなので、やはりそれでやるのであれば、もしかすると、儲かるのかも

しませんが、一般診療しながらそのドクターを1時間、2時間、3時間拘束して、5件、10件回ってくるっていうんでは、ちょっとなかなか経営的にちょっと厳しいかなというところがあります。

○委員長（福田淑子君） 柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） あと、ここ聞きたかったんですけども、要は、施設関係に入っている方が南郷病院のほうに診療に来る回数も結構あると思うんです。実際、私の知り合いもそうになっているんですけども、やっぱりそういうのも、今施設のほうでもクラスターだったり何だりで、施設から出るのも。ほかの人施設に入れるのも控えている部分があって、そういう方の診療もやっぱり同じように減ってきているんですか。

○南郷病院事務長（日野 剛君） うちのほうの場合だと、いなほの里さんが隣にあって、定期的に訪問診療しています。中の、いなほの里の中に診療所みたいながあるので、そちらにドクターが行って定期的に。（「いなほの里」の声あり）はい、行っています。あと、みのりの家さんなんかもあって、みんな連れてきているんですけども、その辺については数的にはあまり変わらない、今までどおりの体制でやっている感じです。

○副委員長（柳田政喜君） ほかに介護施設多いじゃないですか。グループホームも増えてきていますし、みのりの家さんなんかは診療施設もあって、そこにお医者さんが来て診療できるんですけども、ほかのグループホームは病院来なきゃ診療してもらえないじゃないですか。そういうところでは減っているのかなと。ほかからは来ていないのかなと思った。

○南郷病院事務長（日野 剛君） 訪問診療で、鹿島台何だっけ……1か所、鹿島台のほうに行っているケースがあります。木曜日の午後からですか。

○副委員長（柳田政喜君） 訪問診療だと、やっぱりそういう老人ホームだったり、そういう施設ですよ。グループホームなんか、その施設外治療ってできないじゃない。ちょっと病院に来なきゃないってなる。（「そうですね」の声あり）やっぱりそういうところにもアピールして、南郷病院に来てもらえれば手厚くやりますよってアピールしていてもいいんじゃないかなと。でも、今増えてきていますから。うちの中田でも増えてきていますから、施設が。

○南郷病院事務長（日野 剛君） それはもしかするとある程度いい考えかもしれませんが、ちょっと看護課長とかともちょっと相談しながら、体制組めればと思います。

○副委員長（柳田政喜君） 数字的には変わっていないってことですね。

○南郷病院事務長（日野 剛君） そうです。

○委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。（「なし」の声あり）

ないようですので、これで新型コロナウイルス感染症に伴う病院事業への影響についての職員との意見交換を終わります。大変お忙しいところありがとうございました。（「ありがとうございます」の声あり）十分気をつけて。

10分間休憩します。3時25分に再開いたします。

午後3時15分 休憩

---

午後3時22分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

委員全員出席ですので、委員会は成立いたしております。なお、議長も参加していただいております。

ただいま南郷病院のコロナに関する状況をお伺いいたしました。いろいろ対策を練って、それから9月議会に提案されるものも大体分かったんですけども、じゃあ委員会としてどうするかという部分についてお話し合いをしていきたいと思います。

休憩します。

午後3時23分 休憩

---

午後3時34分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

皆さんのお話をお聞きして、まず国と県に意見書、これについては財政支援、それから病院従事者に対するPCR検査の実施、これを国と県に意見書をするということで、9月議会に向けて皆さんでまた協議していきたいと思いますが、これでよろしいですか。（「はい」の声あり）

それから、この南郷病院の状況につきましては、私たちの常任委員会だけでいいのかなという思いはちょっとやっぱり疑問ですので、議会として全部この状況をぜひ知っていただきたいなと思いますので、これを19日に全員協議会があるということをお聞きしていますので、議長を通じて町長に要請するということがよろしいでしょうか。よろしいですか。この状況を全協でちゃんと話を聞いてもらう。同じ認識でいるようにぜひしていけばなと思いますので。じゃあ、このPCR実施……（「委員長、町長は要請」の声あり）全協ね。（「全員協議会、要するに、今日言った事務長みたいなお話しを町長がしてくれる。で、頼む話なの」の声あり）全協でぜひ状況を話してほしいということを……（「っていうことを、議長が」の声あり）通し

て要請をする。（「してほしいよと」の声あり）はい。（「分かりました」の声あり）

これで新型コロナウイルス流行に伴う南郷病院の状況についての関係につきましては終わりました。

続きまして、石巻市に所管事務調査に行きましたけれども、この報告をあしたの会議に報告したいと思いますので、皆さんで一度目を通していただければと思います。

休憩いたします。

午後 3 時 3 6 分 休憩

---

午後 4 時 2 0 分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

所管事務調査につきましては、議長にこのまま報告をしたいと思います。

それから、先ほど病院の状況につきましては、議長を通して町長に、19日の全協があるということなので、病院の状況が一体どういうふうになっているのかということも含めて、ぜひ報告をしていただきたいということを議長を通して町長に要請をするということにしたいと思います。（「はい」の声あり）

ほかに、皆さんからありませんか。

次回は9月24日2時から行いたいと思います。

皆さんから何かありませんか。（「なし」の声あり）

ないようですので、これで常任委員会の会議を終わります。

副委員長、お願いいたします。

○副委員長（柳田政喜君） それでは、皆さんお疲れさまでございました。

大分暑くなってきました。体調管理だけは十分気をつけてください。

本日はどうもお疲れさまでした。

午後 4 時 2 1 分 閉会

令和2年8月6日

教育、民生常任委員会

委員長